



『佐礼谷窯』 陶芸家

清家 久 さん

(松山市在住)

陶芸は

「自分を探す旅」です



中山町佐礼谷にある工房「佐礼谷窯」。自然と調和した建物はどこか懐かしさを感じさせます。陶芸家の清家さんは佐礼谷に魅力を感じ、縁もゆかりもないこの地を陶芸作りの場所に選びました。

「佐礼谷」という地名の響きがよくつたんです。もちろん陶芸づくりの環境にもいいと思いました。何よりも空がひらけています。」

八幡浜市で生まれ、松山市での会社勤めを経て、37歳のときに佐賀県で陶芸の修業に入りました。

「休みの日には自家菜園などを楽しみ、ずっと土に関わりたいと思ってたんです。」

2年間修業し独立、平成2年から佐礼谷窯を拠点に、毎年5月と11月の「窯開き」(焼き上げた新作を展示、販売)に向け、3人体制で陶芸と向き合う日々を送っています。

唐津焼をベースとした『佐礼谷焼』は、佐礼谷の良質な赤土を主な材料として、さまざまな土を混ぜ合わせ、独自の技法を用いて焼成しています。特徴は陶器を焼き上げる際に用いる技法「炭化焼き締め」。工房の裏にある登り窯

(斜面を使って炎の効率を生かす窯)は、一度焼き上げた陶器をいぶして仕上げる珍しい窯です。いぶす薪には、周囲の雑木や切り落とされた栗の木の枝などを使います。

「日々試行錯誤しながら、さまざまな材料や技法を用い

て、いつも多種、多様なものを作ろうと思っています。窯開きの際に来ていただくお客さんはもとより、できるだけ多くの方に、生活の中のいろんな場面で使用してもらいたいんです。」

工房の中には、湯呑みや急須、鍋、あかりといった豊富な種類の陶器が並びます。

「自分にとって陶芸とは、『自分を探す旅』です。何年やつてもいろんな失敗をします。失敗や成功を繰り返していく中で、今まで気付かなかった自分自身を発見します。陶芸は、自分の奥に眠る新たな自分を引き出してくれます。」

清家さんの自分を探す旅は、まだまだ続きます。

